

## 縄文時代の石器発見

野々下 静

佐伯の番匠川流域一帯は豊富な縄文遺跡が点在している。その第一は昭和二十三年（一九四八）に市内上堅田大字長谷の下城遺跡である。

下城遺跡は弥生時代の集落跡であり四つの貝塚と四つの住居跡が発見されているが、弥生式の貝塚に接近したローム層に若干埋没するような状態で縄文早期の押型文土器が多数発見された。

第二は大越川を挟んだ対岸にある長良貝塚である。下城遺跡と同じ昭和二十三年に二つの貝塚が発見され、その下層からも縄文早期の押型文土器と縄文後期の遺物が発見された。

その他にも八匹原遺跡、宮野遺跡、道越遺跡（以上宇目）、上ノ原遺跡、源六原遺跡、亀ノ甲遺跡、カサノ原遺

跡、椀ヶ原遺跡（以上直川）、白濁遺跡等がある。

私の住んでいる佐伯市狩生でも、縄文時代の石器が発見された。発見されたのは磨製石斧せきか二点である。

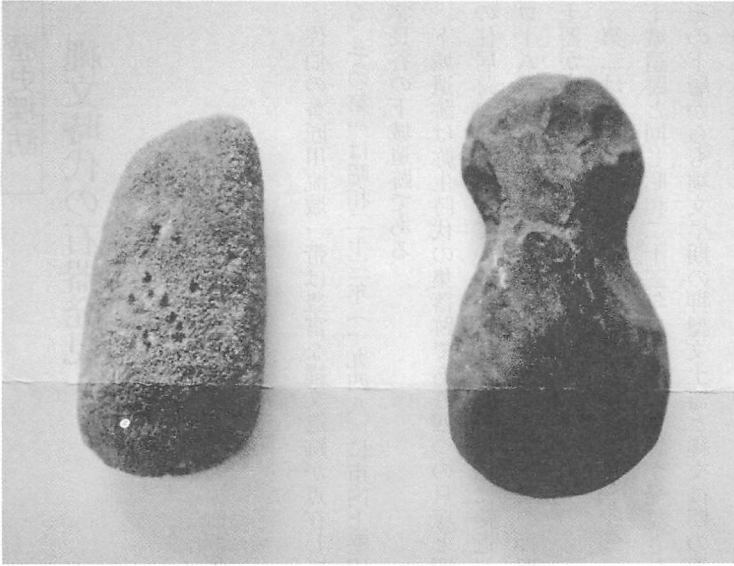
発見された場所は、佐伯市大字狩生字クボハタという地区である。このクボハタと呼ばれる磨製石斧の発見された場所は、日豊本線狩生駅の北西、佐伯市立西上浦小学校の西、聴松庵（聴照庵）下の畑である。

この場所は、私の家の畑の近くにあり非常に土の深い場所である。私の畑でも三十五年程前、庭土として畑を一米ートル五十センチメートル程掘った事があるが、その時もこの深さまでずっと土ばかりでした。この地区の人たちはこの土を「どや土」と呼んでいる。

このような事から考えると、この土は縄文早期遺跡に多く見られる土、約二万九千年前後の始良火山あいらの噴火による火山灰で構成される粒の細かい土（ローム層）ではないかと思われる。

発見された磨製石斧は、縄文時代から弥生時代、古墳時代までの長い期間使用されていたもので、木を切ったり工作したりする時に使われたり、畑を耕す鋤の代わりを

したり、樹木の実(木の实)を割ったりしていたと推察される。



磨製石斧（左）と局部磨製石斧（右）

○名称 磨製石斧（左／数年前発見）

色は 白っぽい色

長さ 十、七cm、幅五、四cm 厚さ二、八cm

重さ 二六〇g 発見者 野々下 静

※数年前、狩生の私の家の畑で発見。

○名称 局部磨製石斧（右／平成二十五年六月発見）

色は 黒っぽい色

長さ 十二、九cm、幅六、七cm、厚さ二、七cm

重さ 二八〇g 発見者 東 忠明さん

※ごぼう堀り中、表土下一メートル位にて発見

この二点の磨製石斧は佐伯教育委員会に寄贈した。

教育委員会担当者の話では、土器と一緒に出土すると

この磨製石斧の時代がもっと詳しくわかるのだがと話さ

れていた。私の家の畑では庭土を採取した際、深さ一メー

トル位の所から五、六片、土器片が発見されている。

今はどこにいったかわからない。残念な事である。

最後に磨製石斧の発見された場所を照会する。

